

様式2

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名 静岡県立富士宮東高等学校

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

1 実践テーマ	【I、III、V】
2 実施対象者	<p>I、V：保健体育科の授業 678人（1～3年）</p> <p>家庭科の授業 39人（3年70デザイン選択者及び3年福祉科）</p> <p>III：福祉科の授業 33人（1年福祉科）</p> <p>V：全校生徒 678人</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（保健体育科、家庭科、福祉科）</p> <p>行事名（オリンピック・パラリンピック教育講演会）</p> <p>② その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) 講演を通して、オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めるとともに、自己の進路目標達成への強い意欲を引き出す。</p> <p>(2) 自らの生活を見つめ直し、健康維持のために生涯スポーツや適正な栄養摂取を意識できるようにする。</p> <p>(3) 共生社会において、主体的・意欲的に行動できるようにする。</p>
5 取組内容	<p>(1) 講演会</p> <p>① 富山幸子氏講演会（平成30年10月19日（金））</p> <p>富山幸子氏は本校の卒業生で、1984年ロサンゼルスオリンピック男子レスリングフリースタイル57kg級金メダリストの富山英明氏の妻であり、オリンピックをパートナーとして支えてきた。現在は、アマチュアのチアリーディング・チーム「スプレンドーズ」に所属し、レスリングを応援する活動をしている。</p>  <p>講演会では、富山英明氏の活躍をまとめた動画を用いながら、オリンピックやレスリング競技、トップアスリートの生活についての紹介と在校生に向けて激励のメッセージをいただいた。</p>  <p>② 稲葉統也氏による講演会（平成30年11月10日（土））</p> <p>稲葉統也氏はシドニーパラリンピック柔道90kg級で5位入賞した盲目のアスリートである。30歳で突然視力を失ったが、強靱なメンタルと肉体を武器に2020年東京パラリンピック出場を目指し競技生活を再開している。</p> 

講演会では、視力を失うまでの経緯と葛藤やパラスポーツとの出会いと周囲の理解を得るための苦勞、今後の競技の目標などについて、前向きな姿勢で力強く語っていただいた。



(2) 授業における取組

- ① 保健体育科の授業（11月下旬～12月）
1～3年「体育」の体育理論の授業において、スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する講義を行った。
- ② 家庭科の授業（10月下旬）
3年選択「フードデザイン」及び3年福祉科「家庭基礎」の授業において、健康維持のための適正な栄養摂取に関する講義及び実習（弁当作り）を行った。
- ③ 福祉科の授業（2月14日）
1年「社会福祉基礎」の授業において、共生社会の実現を目指し、視覚障害者に対してできることをテーマにグループ討議及び発表を行った。



6 主な成果

全校生徒を対象にした保健体育科の授業と2回の講演会を通して、普段はスポーツに関心の薄い生徒も、オリンピック・パラリンピックや生涯スポーツに対する興味・関心を高めることができた。講師が生いきと語る前向きな言葉から、生徒それぞれが自己の進路目標に向けて意欲的に取り組むための示唆を与えていただいた。

また、講演会でのトップアスリートの体づくりに関する話から、食生活の重要性を理解することができた。家庭科の授業の講義と実習を通して、自己の健康維持のために適正な栄養摂取を意識できるようになった。

福祉科の授業では、稲葉氏がトレーニングをするための施設利用で苦勞した話を受け、障害を持つ人と健常者が共に生活する共生社会の実現のために、今後どのように行動していくべきかについて考えることができた。

7実践において工夫した点（事業の特色）

オリンピックとパラリンピックについての2回の講演会を事業の中核と捉え、事前学習として保健体育科で全学年の生徒を対象にオリンピック・パラリンピックの意義や歴史に関する講義を行い、生徒のモチベーションを高めるようにした。事後学習として、オリンピック・パラリンピックをスポーツとしてだけでなく、食生活の改善や共生社会の実現に向けての学習にも発展させるために家庭科と福祉科の授業でも取り組むこととした。

講演会の講師として、オリンピックに家族として関わった本校卒業生を招き、実際に金メダルに触れたことは、生徒にとってオリンピックを身近に感じる貴重な体験となった。

また、第2回の講演会は学校公開日に実施したため、本校生徒だけでなく、保護者や学校見学に来た中学生にも聴講していただいた。本校生徒以外にもパラリンピックを印象付ける機会を設けることができた。

<p>8 主な課題等</p>	<p>年度途中からの計画となったため、講演会や授業で扱う時期を設定することに苦労した。 今年度は、オリンピック・パラリンピックに対する本校生徒の興味・関心を高めることはできたが、家庭や地域に対する情報発信は十分ではなかった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>オリンピック及びパラリンピアンによる講演会を引き続き実施したい。 今年度の取組によって高められた興味・関心を持続するとともに家庭や地域へ積極的に発信するための取組をしていきたい。</p>